

4 か月間の留学生活で多くの人と交流し、様々な経験をすることができました。その中で師範大学での学校生活について感じたことを述べていきたいと思います。北京に着いてから、大学のキャンパス内を案内してもらう機会がありましたが自分たちが住む寮のほかに、学生寮がたくさん並んでいてスーパーや食堂などの施設が多くあり、学生以外の方が広場で散歩や体操をしていて、敷地が1つの街のように感じました。授業は8時からだったので最初は早いなと思ってましたが、寮から教室までは遠くないのですぐに慣れることができました。

最初の授業では、先生が話す中国語がまったく理解できず4か月やっていけるのかとても不安になりました。授業の中で、先生に質問されても分からないと答えるしかなく、他のクラスメイトたちがすらすらと答える姿を見て焦っていました。

しかし、何日か経つうちに自然と単語が耳に入っていくようになり、授業についていけるようになりました。クラスメイトと話すことも増えていき、休憩時間にお互い分からないところを教えあったり、授業で習った単語を使いながら会話をしたりして楽しく、有意義な時間を過ごせました。クラスではヨーロッパからきた留学生が多く、初めのころは教室で英語が飛び交っていて仲良くなれるか心配でしたが、徐々に皆中国語で話すようになり、会話ができて楽しかったです。授業ではプレゼンテーションをする機会がとても多く、自分の国の食文化や行事などを紹介しました。まだ知っている単語や文法が少ないなかで中国語を使って伝えるというのは想像以上に難しく、毎回苦戦しました。しかし、クラスメイトが日本の文化に興味を持ってくれたときにはとても嬉しかったです。

授業中自分の国について話す機会がよくあり、先生が中国の生活習慣や文化、考え方などを説明し、日本ではどうかと質問されることがよくありました。

今まで、日本で暮らしているときは気付いていませんでしたが日本について知らないことがたくさんあると思いました。留学の1つの目的として、中国や他の国々の人と交流して文化を知りたいと思っていましたが、自分自身をもっと日本について深く知っていれば、しっかり伝えることができたし、他の国との違いを学ぶことができたのではないかと思い、吸収するだけでなく自ら発信することも大切だと感じました。

授業が終わってからは、寮に近い食堂で昼食を食べたり麺類をテイクアウトできる店で買って食べたりしました。昼の時間、留学生だけでなく、ほとんどの学生が食堂に来るので混雑してとても大変でした。

寮生活では部屋は広く、学習するスペースなどもあり特に不便なく過ごすことができました。ただ、故障したものがあつたときスタッフに言ってもなかなか来ることがなく、明日明後日と先延ばしになったり、大丈夫！の一言で終わることもあり中国らしさを体験して驚くこともありました。しかし、このようなことも含めて留学でしかできないたくさんの経験ができ、充実した留学生活となりました。授業で学んだことを活かすだけでなく、

北京で感じたことを大切にしていきたいと思いました。